

8月8日「夏トマトの日」

J A全農岐阜が申請、認定



県内で生産の盛んな夏秋トマトが旬となる8月8日が「夏トマトの日」に24日制定された。全国農業協同組合連合会県本部(J A全農岐阜)が日本記念日協会(長野県)に申請し、認定された。

県内では高山市を中心と
田宮智康事務局長(中央)から
登録証を受け取った西村寿文県
本部長(右から2人目) 〓 高山
市冬頭町、J Aひだ本店

した飛騨地域や郡上市、中津川市など標高3000メートルの高冷地で夏秋トマトの栽培が盛んで、年間約1万6千トンを関西や中部地方に出荷している。J A全農岐阜は、トマトのさらなる消費拡大を図ろうと夏トマトの日を同協会に申請。8月に出荷のピークを迎え、8の形を鈴なりに実るトマトの姿になぞらえ、8月8日を記念日に選んだ。

高山市冬頭町のJ Aひだ本店で登録証の授与式があり、J Aの関係者や生産者ら12人が出席。J A全農岐阜の西村寿文県本部長が「夏バテ防止に効果のある夏秋トマトを大勢に食べてもらい、暑い夏を乗り切ってほしい」とあいさつし、同協会の田宮智康事務局長から登録証を受け取った。県夏秋トマト部会の挟間廣一部会長(57) 〓 同市丹生川

町坊方 〓 は「8月は夏秋トマトが一番おいしい季節。夏トマトの日が全国に周知され、食べてくれる人が増えてらうれしい」と話した。(山田雄大)

無断複製・転載を禁じます